

2024年度入学試験問題

国語

(3月5日)

開始時刻 午後1時00分

終了時刻 午後2時00分

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. この冊子は17ページです。落丁、乱丁、印刷の不鮮明及び解答用紙の汚れなどがあった場合には申し出てください。
3. 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、監督員の指示に従って、それぞれ正しく記入し、マークしてください。

① 受験番号欄

受験番号を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしてください。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名とフリガナを記入してください。

4. 解答は解答用紙の解答欄にマークしてください。例えば、

と表示のある問いに対して◎と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の◎にマークしてください。

(例)

10	◎	○	○	○	○
----	---	---	---	---	---

5. 問題冊子の余白等は適宜利用してもかまいません。

次の文章を読んで、問一～九に答えなさい。

理性とか論理的思考というと、一般に脳と深い関係があると考えられている。もちろん、感情も含め、脳が制御しているわけだから、ことさら理性と脳を結びつけるのは適当ではない。しかし、一般に感性で行動する場合にはあまり意識されないのに、理性的に行動しているとか、論理的にもの考えるという場合には、脳、とりわけ大脳が関わっていることが意識される。ところが、筆者のように、脳の研究をしていると、そこから明らかになってくることは、むしろその逆のことだ。つまり、人間は理性や論理では説明しがたい動機によって行動しているということだ。【①】

極論すれば、人間はよくわからない感情に振り回されて、無意識のうちに自分の行動を決めている。我々は、あたかも自分の行動はすべて自分の意志で決めているような気分であるが、たいていのことは、自分の意識とは離れた脳のどこかで密かに決められている。もちろん、「私」はそのことに気づいていない。「私」の意識にとっては、自分に見えている世界がすべてだと感じている。だから、そんな無意識の世界が、意識できる世界の外に広がっていることに気がつきようがない。脳を研究することは、けっきょく人間の無意識と向かい合うことになる。【②】

たとえば、「人殺しはなぜ悪なのか」という根本的な倫理命題について、理性に基づいて論理的に証明することは難しい。しかし、我々は即座に、人殺しが悪いことだと直感的に判断している。何か根拠に基づいて理性的に判断を下したわけではない。じつは、脳科学の研究によって、このような倫理的な善悪の判断は、理性では説明できない感情的な無意識な部分に強く影響を受けていることがわかってきた。倫理の命題は、論理によって証明できるタグイのものではない。こういう根本的な倫理的判断は、理屈をこねずに「ダメなものAはダメだ」と教えるべきだという意見もあるだろう。しかし、脳科学は「人殺しはなぜ悪なのか」に答えることはできないが、その代わりに「X」^Aという問題に答えを出せる。【③】

【I】^B脳について知れば知るほど、近代に成立した「合理性」というものが、人間にとってむしろ不自然なものではないかと感じられる。経済学では、人間の行動原理が合理的な判断に基づく自己利益の追求であると仮定する。そして個人の利益の追求は、結果として社会全体の利益につながるのだと考える。しかし、このような経済合理性に基づく人間観に、根本的なところで違和感を覚える人は多いだろう。たとえば、困っている人を見たときに生じる、助けてあげたいという感情は、自分の経済的利益の追求という観点からは極めて非合理的である。【④】

【II】たしかに、人間が金銭的な損得に応じて行動を決定するのは事実である。誰でも余計な費用のかかる行動は避けようとするし、生活費をカセ^イぐために仕事をする。しかし、経済学が仮定するような、自己利益の追求というのは一種の教義^Cであると考えるべきだろう。人間の行動の動機がすべて自己利益の追求で説明されるわけではない。【⑤】

リーマンショック以降は、自己利益の追求が社会にとってよいことだという経済思想は、かつてほどの支持を受けなくなってきた。むしろ、お

金よりも大事なものが人間にはたくさんあるということに人々は気づき始めている。お金がないのは困るが、実のところもつと「心の充実」を求めているのだ。なんと、そういうことが脳科学の成果によって裏づけられる時代がきている。脳科学の発展によって、金銭的な損得勘定では割り切れない倫理観や道徳感情が、生物学的進化の結果として人間の脳と遺伝子に組み込まれていることがわかってきた。

〔Ⅲ〕倫理学とは、善悪をいかに区別するのか、倫理の基準となる価値の起源は何なのかという問題を探究する学問である。歴史上、これらの倫理学的問題はおもに哲学者たちが扱ってきた。哲学者たちは、個人の直感や論理的考察をもとに、倫理に関する概念の整理を行ない、普遍的原理を導こうとしてきた。しかし、純粹に論理的思考と言語による分析だけでは、倫理の根源を探ることには限界がある。哲学者のとってきた、形而上学的アプローチの弱点は、異なる意見や理論が存在するときに、その優劣を決めるべき試金石となる実験がないことだ。そのために、真偽の検証のはずが、主張の言い合いのみになってしまい、検証不可能に陥ってしまう。

〔Ⅳ〕近年になって社会心理学や進化理論の観点から、人間の倫理観の研究が進み、実証科学 (empirical science) としての倫理学の研究が始まりつつある。実証科学というのは、理論を実際の経験や観察と照らし合わせて検証することにより、Y を構成していくという科学である。哲学と実証科学の違いは、まさにここにある。科学的手法と一般にいわれるものは、仮説を実験データと照らし合わせることで、主張の真偽を検証する。実験データと比較することで、仮説や主張も更新され、新たな「物の見方」を生み出すことができる。近代以降の科学の成功は、このような実証科学というアプローチによってもたらされた。

〔Ⅴ〕実証科学としての倫理学に、ここでいう実験データをテイキョウウするのが、脳科学である。人間が善悪の判断をするときに、どのような心理作用をもとに脳の中で判断をしているのか、どのような脳の領域が倫理的判断に関わっているのか。そんなことが今や脳科学の成果としてテイキョウウできつつある。また、心理学や行動経済学の目標の一つは、人間の行動を理解し予測することである。ここでも、人間がZ にもっている倫理観を想定しなければ、人間の行動の裏にある動機を理解することはできない。そのため、脳科学の成果を通して倫理的な行動を理解することは、心理学や行動経済学においても重要になってくるはずだ。

倫理観というと、人間の最も高尚な精神機能に基づくと考えられている。もちろん、倫理的判断を下さなければならぬときに、悩み苦しむことができるのは、人間に与えられた高度な認知能力の賜物といえるだろう。「高齢で病気の親を救える薬は一つしかない。しかし、目の前の瀕死びんじの若者もその薬で助けられる。人間として子として、はたしてどちらを助けるべきか」などのように複数の倫理規範を同時に天秤てんぺんにかけなければならぬようなジレンマに陥った状況では、難しい判断が迫られる。このような倫理的判断は、理性で論理的に結論を出すものではない。判断すべき状況を正確に把握するには、理性は役に立つかもしれないが、最終的には心情で決まる。

そもそも、「人を殺してはいけない」というあたりまえに思えるような規範でさえ、数学のように証明することはできない。というのは、「善悪」という絶対的な概念には、何の前提もなしに論理で辿り着くことはできないからだ。つまり、究極的に、倫理には根拠はない。根拠がないのだから、倫理的価値観というのは意地悪な言い方をすると「フィクション」であるともいえる。

(金井良太『脳に刻まれたモラルの起源』による。設問の関係上、本文を改めたところがある。)

問一 傍線部ア～ウと同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

イが 2、ウが 3。

- ア タグイ
- ① 三ルイの走者がホームインする
 - ② ルイケイ三〇〇万回も再生された動画
 - ③ 他にルイを見ない優れた作品
 - ④ 先輩の温かい励ましでカンルイにむせぶ
 - ⑤ ゼンレイのない珍しい出来事

イ カセグ

- ① 責任テンカする
- ② 新しい機械をカドウさせる
- ③ 大企業の市場カセン
- ④ 部屋のシヨカに本を並べる
- ⑤ ヨカに釣りを楽しむ

- ウ テイキヨウ
- ① 核兵器のキヨウイ
 - ② コツキヨウの検問所
 - ③ 視力をキヨウセイする
 - ④ 犯人がジキヨウした
 - ⑤ 相手にキヨウカンする

問二 本文からは、「倫理的な行動の基本となる道徳感情は、往々にして非合理的である。」という一文が抜き出されている。どこにもどしたらよい

か。最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、4。

① ①

② ②

③ ③

④ ④

⑤ ⑤

問三 本文は、内容の上から前半と後半に分かれる。後半部分の最初は〔Ⅰ〕～〔Ⅴ〕のどこになるか。次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記

号をマークしなさい。解答番号は、5。

① Ⅰ

② Ⅱ

③ Ⅲ

④ Ⅳ

⑤ Ⅴ

問四 傍線部A「人殺しはなぜ悪なのか」に答えることはできないのはなぜか。その理由として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選

び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、6。

① その時の状況や価値基準によって、なにが悪かそうでないかの判断はまちまちだから。

② 脳科学は倫理学とは学問領域が違うので、倫理命題について答えを出すことはできないから。

③ 脳科学でも倫理学でも、「人を殺すこと」について善悪の判断を行うのは不遜だから。

④ 「人殺しはなぜ悪なのか」というような倫理命題は、論理によって証明できないから。

⑤ 「人殺しはなぜ悪なのか」というような問題に判断を下すための論理が、まだ構築されていないから。

問五 空欄 X に入る言葉として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

7

- (a) 人はなぜ殺人を犯すのか
- (b) 人はなぜ殺人を悪だと思うのか
- (c) 人はなぜ殺人を恐れるのか
- (d) なぜ人を殺してはいけないのか
- (e) なぜ人を殺したいと思うのか

問六 傍線部 B「近代に成立した「合理性」というものが、人間にとってむしろ不自然なものではないかと感じられる」のはなぜか。その理由として

最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

8

- (a) 近代に成立した「合理性」は、人間の本能に従ったものではないから。
- (b) 近代に成立した「合理性」は、理屈の上から人間の行動を捉えただけのものだから。
- (c) 近代に成立した「合理性」は、近代化を推進するために考え出されたものだから。
- (d) 近代に成立した「合理性」は、近代社会における人間の行動原理を定めたものだから。
- (e) 近代に成立した「合理性」は、人間の行動を生み出す無意識の部分を見逃したものであるから。

問七 傍線部 C「一種の教義」とはどのようなものか。本文での内容として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマ

ークしなさい。解答番号は、

9

- (a) ある事柄を盲信的に信じる人には、絶対的な真実として受け止められてしまうようなもの。
- (b) 普遍性を持つように見えながら、一部の人間にしか真理と認められないもの。
- (c) 真偽が判断できないものであるにもかかわらず、人々に大きな影響を与え、人々の行動を支配するもの。
- (d) 特定の分野においては、真理として認定されているが、別の分野からは、必ずしも真理とは認められないもの。
- (e) 高度に抽象化されたものであるが、その真偽は判定不可能であるようなもの。

問八 空欄 Y

に入る言葉として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

10

① 倫理

② 知見

③ 理論

④ 価値

⑤ 真偽

問九 空欄 Z

に入る言葉として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

11

① 伝統的

② 身体的

③ 生物的

④ 特権的

⑤ 生得的

次の文章を読んで、問一～七に答えなさい。

ギリシアやローマ、つまりヨーロッパの古代の都市を見てみると、ギリシアにおける代表的都市アテネやスパルタ、それからラティウムという地方の中心都市として成立したローマ等を考えた場合に、これらはいずれも領土を持った都市国家の姿を示している。原則として周辺の地主である市民がその領土のまん中に集団的な生活を営んで、奴隷その他の従属の民がその領土でその地主の土地を耕作する。そうした場合、アテネあるいはローマは都市であると同時に国家の中心であるという特色を持っている。従ってアテネとかローマの都市の密集した部分だけを取り上げてみると、それはいわば消費者都市なのであって、生産者はその周辺の農村にいる奴隷および従属の民であるという形をとる。ここに古代の大きな特色が出ていると思われるのである。

これに反して西洋の中世の都市を考えてみると、これは決して都市^A国家にはならないで都市^{*}と農村が対立している。つまり農村は封建諸侯が治めて、都市には市民が住んでいる。ところがその市民というものは、原則的に農村に土地を持っている地主でもなければ、あるいは地代だけで立っている特権階級でもない。自分で商業を営み、自分で手工業を営む広義の生産者の集団なのである。商人を生産者というとおかしいようであるが、中世都市の商人というものは、古代の地主のように、自分で働かないのではない。自分で直接経済的利益を追求する。そういう形で、大ざっぱに言えば古代との比較という点では、中世は明らかに生産者都市であるというふうに考えられるのである。しかも中世の都市というものは、自分が経済政策の集団的なない手になっている。そこにまた一つの特徴が出ていられる。つまり中世においては国家の経済政策というものはまだほとんど現われていないのであって、おのれの都市が経済政策をおこない商工業政策、社会政策をおこなう。従って、たとえばイギリスのある都市が、他のイギリスの都市民を考える場合も、フランスの都市民を考える場合にも、^B共によそ者^B (foreigner) という言葉でその都市の市民を呼んでいるわけで、国民的な自覚というものはきわめて稀薄^{きはく}である。政策のない手はあくまでも個別的なおのれの都市であるという形をとっているのである。これに反して、さらに発達した段階になると、つまり近世の都市になると、国民経済^{すなわ}即ち国家の経済政策というものが強く現われてきて、その国家の経済政策の一つの手段というか、国民経済にくみ入れられた上での都市の機能というものが考えられることになる。そのときにいろいろの形の都市ができるが、一等顕著に見られるのは、政治権力の増大に伴って成立または発達する各国の首府——パリとかロンドン、ベルリン、ウィーンというような首府の驚くべき発達という現象と、それから一八世紀末の産業革命以来顕著になってきた工業都市、それからまたその工業都市の製品を国民経済的な前提の上に立って海外へ輸出するところの龐大^{ぼうだい}な港湾都市、たとえばハンブルグだとかブレーメンというふうな港湾都市が大きく前景にあらわれる。つまり、近世都市になると、^Cかつての政治的な独立性というものは、国家の前に漸次に失われてしまっている。

今、大ざっぱに古代のギリシア、ローマの都市、中世の都市、近世の都市のあり方をガイカンしたものであるが、これだけを考えてみても、都市はいかにそのおのおのの民族あるいは各時代の真に X 的な形成体であったかということの一端がほぼ首肯うなずされるであろう。そこでもう少し大きな立場から、東洋と西洋との場合を比較してみると、その社会構成の上に原理的に違ったものがあることに気づくであろう。というのは、東洋の場合には国家というものはいかなる原理に立っているかといえば、中国も日本も含めて、それは何よりも家中心の考え方、または家とか同族団体とかによって象徴せられる考え方であると思われる。ところがヨーロッパの場合には、家ではなくて、今申したようにギリシア、ローマ以来はぐくまれてきた市民、つまり都市の原理が国家の原理になっているのである。即ち東洋人特に日本人にとって、国家とはちがった別の社会ひろ、という考え方がなくて、国家と個人を律する原理はいつでも家父長的な支配、あるいは家や同族のモラルというものを極端に国家の面にまでおし拡げたものであって、本来平等なものが一緒になって国家をつくっているというヨーロッパ流の考え方はきわめて稀薄きはくである。ところがヨーロッパの場合には、国家というもの——特に近代国家を考えているのであるが——近代国家というものは、近代になってできた一つの X 的形成体で、それ以前に、中世都市もあれば古代の都市もある。そこで行なわれている集団の生活は社会なので、そのにない手は市民である。国家はむしろその都市の中に形成せられていたいろいろの原理、たとえばソゼイイとか軍隊の制度、あるいは役人の制度、選挙制度、議会制度というふうな諸制度を都市から受け取って国家的な規模に拡大したものにほかならない。従ってヨーロッパの場合には、国家が Y として考えられるわけにはゆかないのであって、いつでも社会と国家、市民と国家が対立して考えられるというか、とにかく次元の違ったものとして考えられる前提が存在しているように思われる。

(増田四郎『都市』による。設問の關係上、本文を改めたところに*を付した。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが

12、イが 13。

- | | | | |
|---|-----------------|---|--------------|
| ア | ガイカン | イ | ソゼイ |
| ① | ガイタンにたえないような出来事 | ① | 侵入をソシする |
| ② | 若々しいキガイにあふれる | ② | ソシらぬふりをする |
| ③ | テンガイ孤独で一生を終える | ③ | ソダイゴミ |
| ④ | ヒヤクガイあって一利なし | ④ | ソセン崇拜 |
| ⑤ | ガイブンをばかり人目を避ける | ⑤ | 他国の領土をソシヤクする |

問二 傍線部A「都市国家にはならない」とあるが、なぜか。その理由を説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

14。

- ① 土地を持つ支配階級が農村での生活を求めたため、都市から農家と地主が消えてしまい、その結果、農村の方が発達したから。
- ② 都市と農村が対立しており、その結果、都市には商人や手工業者だけが住むことになり、都市国家と言うには規模が小さすぎるから。
- ③ 都市がかつてのような権力や財力を持たなくなり、都市であつてなおかつ国家であるような力のある社会的単位が消えたから。
- ④ 都市と農村が対立し、都市には商人・手工業者、農村には支配階級が別々に居住し、すでに都市は国家の中心とは言えなくなったから。
- ⑤ かつて都市国家が持っていた市民の制度というものが、全体の国家にまで拡大したことによって都市国家の存在が不用になったから。

問三 傍線部B「共によそ者」とあるが、「よそ者」という言葉には、市民のどのような意識が表れているか。それを説明したものととして最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

15。

- ① 市民には経済政策をになう単位が都市だという認識があり、国家で区切る単位をよそ者とし、都市に住む市民を優位に立てようとする意識。
- ② 自分が住む都市に対する誇りと愛着が強いため、他の都市に住む市民はすべて同じく、よそ者だと差別する意識。
- ③ 自分と同じ都市に住む者だけが同じ市民であり、その他は国内国外関係なくよそ者で、国家より都市が中心であるという意識。
- ④ 自分で商業や手工業を営んでいる市民は、イギリスの都市民もフランスの都市民も経済活動の相手として、外の人間だと考える意識。
- ⑤ 他の都市の市民をよそ者と呼ぶことで、都市と農村が対立しながら存在し、それぞれ別の機能を有することを強調する意識。

問四

傍線部C「かつての政治的な独立性というものは、国家の前に漸次に失われてしまう」とあるが、こうなったのはなぜだと筆者は考えているか。

それを説明したものととして最も適切なものを、次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、16。

a 都市の一つ一つが独立して存在するより、それぞれがその特性を生かして分業化を図り、首府、工業都市、港湾都市と規定した方が都市経済には良いことがわかったため。

b 国家は、経済政策のためという目的観を前面に押し出し、都市の持っていた政治力や経済力、制度や政策を統合しようと政治権力で働きかけたため。

c 都市が経済的に弱体化していき、生産者都市としての明確な立場を維持できず、産業革命以降の様々な変革の波を受け、外国の勢力に押されてしまったため。

d 国家の経済政策の下で都市が機能するようになり、これまでの政策のいない手としての立場が薄れ、それぞれが首府、工業都市、港湾都市として独自の役割を持つだけになったため。

e 都市民が経済力の増大によって、自分の住む都市から出て、広く経済活動をすることを求めるようになり、都市経済の活性化には政治を国家に任せ、経済に専念するのが良かったため。

問五

空欄 X に入る最も適切な語句を、次のa～eのうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、17。

a 経済

b 文化

c 歴史

d 原理

e 制度

問六 空欄

Y

に入る最も適切な表現を、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

18

- (a) 自明のこと
- (b) 別の社会
- (c) 表象的なもの
- (d) シンボル
- (e) 完全なもの

問七

筆者は「都市」とはどのように規定されるものだと考えているか。それを説明したものとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、

19

- (a) 都市とは、国や民族によって様々な形態があるが、おおよそ人口数万を擁する伝統的な単位と規定できるもの。
- (b) 都市とは、その時代やその民族がそれぞれに作り上げたもので、何か一つの統一的な基準で規定できないもの。
- (c) 都市とは、市民と国家が作り出した複合的な形態であって、消費者や生産者を踏まえた経済政策が規定するもの。
- (d) 都市とは、東洋では家父長制が、西洋では諸制度が、それぞれ拡大したもので、制度から規定されるもの。
- (e) 都市とは、国家によってその地理的区分として設けられたもので、制度や政策、権力の大小で規定されるもの。

メ モ

試験問題は次に続く。

次の文章を読んで、問一〜七に答えなさい。

縁などという言葉を口にする^Aと、おそらく若い人たちには笑われるだろう。

だが人間の縁がしみじみ納得がいき、なるほどと思えるのは人生のさまざまな経験を経たり、人間を多少は見ることができるようになってからである。かく言う私だって二十代、三十代のある時期は縁など一笑にふしていた。それは仏教でいう三法眼^{ほっげん}のひとつ、因縁についての知識がなかったせいもある。おそらく、その頃、この原稿をたのまれれば、

X

であろう。

それが「縁について」を書く気になったのは、わが身の人生を展望できる年齢になって、そこに働いていたものが私自身の個性などではなく、多くの縁の助けやシエ^アンによるものだとかわかってきたからなのである。

仏教には時節到来という言葉がある。人間に働いている仏の心を知るには時節を待たねばならぬの意味である。おなじように縁についても、それが理解できるのは人生の時節を待たねばならない。

キリスト^{キリスト}基督教のほうでは縁という言葉はない。おそらく縁という言葉は基督教用語にはないであろう。しかしこの言葉がないからと言って一人の人間が多くの眼^めにみえぬ存在に助けられて生きていることを否定するのではないだろう。いや、むしろ一人の人間が人生の本当のありかたを知るためには有形無形の生命の助けが必要なことは基督教も肯定しているのである。しかし仏教の素晴らしさはこの縁の意味を積極的にうち出すことで、人間の本来もっている存在の様式を明らかにしたことにある。

戦後の傾向のひとつとして個性重視ということが言われてきた。今日でも一寸^{ちよつと}した人生雑誌をひろげると然^{しか}るべき文化人らしい人が、「個性を大事にせよ」とか「個性を生かそう」ということを強調している。

しかし私はこうした猫^{ねこ}も杓子^{しゃくし}も口にする個性というものを人間^Bのなかであまり尊重しなくなってきた。なぜか。

簡単なひとつの例をあげよう。私は小説家だが、今ふりかえってみると、まずしいながら私だけの作風をやつとつかむことができたのは五十歳になつてからである。

しかし、その私だけの作風もふりかえってみると自分一人の個性でできたのではない。最初は先人の文章の模倣からはじまった。文学観についてもモーリヤックやグリーン、ベルナノス^{フランヌ}の愛読した仏蘭西^{フランス}基督教作家たちの消^{*}しがたい影響の下に少しずつ出来あがってきている。

ひとつの果物が熟するためには大地の養分や太陽の光、農夫の助力など色々な力がそこに作用しているのだが、それとおなじように私の曲^{*}がりなり

にも文学とよべるものは多くの芸術作品のお陰を受けてやっと成立したものだ。

それを私は恥ずかしいとは思わない。まして私の作風が無個性だとも思わない。いや、逆に私の個性が本ものになるためには多くの影響が必要だったのだと思っている。言いかえると、私の個性を作る縁がより集まっていたと考えている。

だが、私は正直いって、個性、個性と叫ぶ戦後の傾向に必ずしも賛成ではない。はつきり言うとう個性よりもっと大切なものがある。

一人の人間の個性を創りだすためにそこに働いたあまたの縁がある。

もしくはそのような縁を無視して、自分の独力で今日までこられたかどうか、自分の個性は自分自身で創りだしたかどうか、もう一度、考えてみると、そうでないことにすべての人が気づくだろう。

仏教はこの世にあるものは悉く絶対的ではないと教えている。絶対的でないとは、それ自体で独立して存在しているものは何もないということである。すべてのものはたがいに支えあって、もたれあって存在している（その関係を仏教は縁とよぶ）から、何ごとにも絶対的な価値を置いてはならぬと説いている。

支えあい、もたれあって存在している関係。それが縁の一つの相である。

しかし、もう一つの縁の相があると私は思っている。それは縁のもつ Y、ふしぎさである。

これをどう説明したらいいだろう。

そう、たとえばあなたが結婚しているとする。見合いでも恋愛でもいい、どのような形で自分の配偶者をあなたは選んだのだろうか。

「彼（彼女）をみつけ、選んだのはこの私だ」

とあなたが錯覚するならば、もう一度、考えてみよう。かりにあなたが配偶者を選んだとしても全世界すべての男（女）のなかから選んだのではあるまい。せいぜいあなたの周辺や周辺に偶々、来た異性から選んだにすぎぬ。だからあなたの選択は結局、たいしたことではないのだ。

むしろ大事なのはその人があなたの配偶者になったふしぎさのほうである。なぜ、その人がこの世に生まれて、あなたの周辺にいたのか。あなたに選ばれる場所にいたのか。そのほうが Y 的である。そこにはあなたの見通しや智慧の及ばぬ何か働いていると思わないだろうか。

これが縁のもつふしぎさ、 Y である。そのふしぎさに思いあたる時、この縁を大事にしたいという気持もおのずと湧いてくる。その気持には眼に見えぬものに対する Y の感情もまじっているのだ。

このようなことを若い人たちに語ったところで、耳傾けてくれないかもしれない。このことがしみじみと実感をもってわかるには、「時節」がいる

のだ。仏教でいうあの時節が……。

(遠藤周作『生き上手 死に上手』による。設問の関係上、本文を改めたところに*を付した。)

問一 傍線部ア、イの漢字と同じ漢字を含むものを、次の①～⑤のうちから一つずつ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は、アが 20、イが 21。

- | | |
|--------------|--------------|
| ア | イ |
| シエン | イケイ |
| ① 会社のエンカクを語る | ① イアツ的な態度 |
| ② セイエンを送る | ② 国にイタクされた業者 |
| ③ エンゼツ会に行く | ③ イフの念をいだけ |
| ④ 電車がチエンした | ④ 強くイリユウされた |
| ⑤ エンジユクした技巧 | ⑤ 体制をイジする |

問二 傍線部Aの「おそらく若い人たちには笑われるだろう」とする理由として最も適切なものを、次の①～⑤のうちから一つを選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 22。

- ① 若い人は、縁など一笑にふしているから。
- ② 若い人には、仏教でいう三法眼のひとつ、因縁についての知識がないから。
- ③ 若い人は、人生が多くの縁の助けによるものと分かっているから。
- ④ 若い人は、人間に働いている仏の心を知るには時節を待たなければならないから。
- ⑤ 若い人は、基督教に縁という言葉がないことを知らないから。

問三 空欄 X に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 23。

- (a) 言下に辞退した
- (b) 書く必要がなかった
- (c) 迷わず執筆した
- (d) 絶対書けなかった
- (e) 喜んで寄稿した

問四 傍線部Bの「あまり尊重しなくなってきた」とするその理由を、作者はどのように述べているか。最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 24。

- (a) 「まずしいながら私だけの作風をやっとつかむことができたのは五十歳になってからである」から。
- (b) 「最初は先人の文章の模倣からはじまった」から。
- (c) 「私の作風が無個性だとも思わない」から。
- (d) 「私の個性が本ものになるためには多くの影響が必要だったのだと思っている」から。
- (e) 「もう一度、考えてみると、そうでないことにすべての人が気づく」から。

問五 空欄 Y に入る表現として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 25。

- (a) 懐疑
- (b) 怪奇
- (c) 神秘
- (d) 不可思議
- (e) 魅力

問六 この文章には、二つの例えが出されているが、例えを出した理由として最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 26。

(a) 一つめの例えでは、個性を生み出すには多くの助力が必要だということを示し、二つめの例えでは、出会いは縁によることを示している。

(b) 一つめの例えでは、多くの影響を受けても無個性を作り出すのではないことを言い、二つめの例えでは、縁を大切にすることで結婚もできると言っている。

(c) 縁の重要性を述べるために、一つめの例えでは「模倣」を、二つめの例えでは「錯覚」をキーワードにして説明している。

(d) 一つめの例えも、二つめの例えも、若い人たちに対して、個性を作るも縁、配偶者を選ぶも縁ということを理解させるために挙げている。

(e) 一つめの例えでは、個性を作るには多くの縁が必要だったことを述べ、二つめの例えでは、縁のもつふしぎさを示すために述べている。

問七 本文の内容をまとめたものとして最も適切なものを、次の(a)～(e)のうちから一つ選び、解答欄の記号をマークしなさい。解答番号は 27。

(a) 全体として、それぞれの個性よりもっと大切なものは、仏教という縁と時節であると述べている。

(b) 前半で、現代は個性重視の時代であるが、個性を作るにも縁が大切であることを述べ、後半で、縁のもつふしぎさと、その縁のふしぎさが分かるには時節が必要だと述べている。

(c) 若い人たちに呼びかける形で、前半は、時節の大切さについて述べ、後半は、身近な回りの縁の大切さについて述べている。

(d) 前半で、仏教と基督教との違いを、縁という言葉 키워ドとして述べ、後半では、個性よりも大切な縁と時節について述べている。

(e) 「おそらく若い人たちには笑われるだろう」から始まり、結びでも「若い人たちに語ったところで、耳傾けてくれないかもしれない」と述べていて、全体を通して、若い人たちに個性よりも大切なものがあるということを述べている。

